

出張報告

報告日 令和8年 2月 9日

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	生成A Iを活用した予算審議（基本編）
日時	令和8年1月24日（土） 10:00 ~ 12:30
場所 （会場）	映像視聴で研修
調査項目等	<ul style="list-style-type: none">・生成A Iの基本・議員活動における生成A Iの使い方・議会質疑における生成A Iの活用事例・A Iを活用し、予算審議に必要な情報を取得する方法
概要	<p>○生成A Iの基本</p> <ul style="list-style-type: none">・生成A Iとは 主な生成A Iは、OpenAI 社の ChatGPT、Google 社の Gemini や NotebookLM、マイクロソフト社の Copilot（コパイロット）などがある。それぞれに無料プランと有料プランがあり、無料プランには利用回数など制限がある。・使いこなすためのポイント プロンプト（質問）は具体的に。回答の形式も指示する。困ったら「どう聞けばいい？」と質問してみる。回答の正確性は自分で確認。・議会活動における生成A Iの使い方、画像生成について 個人としてのブログ作成時に活用。内容、表現等について「壁打ち（対話）」して精度を高めていく。 画像生成については写真をアニメ風にしたたり、ポーズや背景を変えることは容易にできるが、無料プランではその回数に制限がある。・議会質疑における生成A Iの活用事例 新しい制度の調査、要約。先進事例の調査。論点の抽出。質問、答弁構成案の作成などができる。 論点の抽出の観点としては、「制度の目的と位置づけ」「対象者・公平性」「運営体制・人員確保」「財政負担と持続性」「利用実態とニーズ把握」「既存施策との関係」「安全管理・質保障」「利用促進と広報」「効果検証」が考えられる。

	<p>・ハルシネーション（嘘の情報）が含まれている可能性を常に念頭に置く。 これに関しては NotebookLM ではアップロードされた資料を活用することに特化しているので他の生成A I に比べ信頼性が高い。</p>
所 感 等	<p>【重野正毅】</p> <p>以前一般質問でA I の活用を取り上げたことがあった。その時市長は生成A I により一部作成したという答弁を読み上げた。そこでの議論から、議員が生成A I で作成した質問に市長が生成A I で作成した答弁を読むということがこれからの議会では珍しくないものになるのかもしれないと思えた。</p> <p>この講座は生成A I を活用する基本編だった。チャットG P Tだけでなくいくつもの生成A I が出されている中、ハルシネーションといわれる嘘の情報が発生する可能性がどうすれば少なく抑えられるかということも紹介された。議会としては生成A I を適切に活用できる環境を整えるように働きかけられるといいと考えている。また、最終的には議員個人が意思決定することではあるが、議員としての情報収集の在り方や当局との協議、一般質問の作成に至るまで生成A I を適切に活用するスキルを高めていきたい。</p>

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種 別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	生成A I を活用した予算審議（実践編）
日 時	令和8年1月24日（土） 13:30 ~ 16:00
場 所 （会場）	映像視聴で研修
調査項目等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政資料の見方 ・ A I を活用した財政分析 ・ 事業評価の見方 ・ A I を活用した事業分析 ・ 質疑の後に必ずやるべきフォローアップ
概 要	<p>○A I を活用した財政分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財政資料の見方 財政分析のために「財政状況資料集」を活用する。この資料のうち「目的別歳出決算分析表」をチェックしていく。これにはその市担当者によるコメントが記されているので、その市としてどのように分析しているかがわかる。その分析に関しても質問を組立てることができる。 ・ A I の活用 分析のためのソース（資料）を読み込める形式に変換してから読み込ませることが必要な NotebookLM だが、ソースが正しい分、正確な分析を回答として示してくれる。NotebookLM はエクセルファイルを読み込めないため、それを Google スプレッドシートに変換する必要がある。 ・ 議会として事業分析をするときに当局側の行政評価を使う 国の調査として「地方行政サービス改革の取組状況等に関する調査」がある。そこには全国の全自治体の行政評価実施状況がまとめられており、他の自治体と自分の市の行政評価の実態が比較できる。 <p>○質疑の後にやるべきフォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質問を実現させるために 議員の本気度を職員に伝えていく。そのために、質問した事柄についての審議会があればそれを傍聴したり、ブログ等で情報発信したり、現場に行き調査したり、繰り返し質問で取り上げたりしていくことが必要。 ・ 委員会や会派の視察に行った後も可能な限り担当部局と情報を共有してみることも効果的。できれば視察に行く前にも視察内容等を担当部局と打ち合わせること視察を充実させるためには効果的だと思われる。

所 感 等

【重野正毅】

講座の1コマ目に続いての実践編であった。予算だけでなく決算審査に対しての臨み方が私個人としては今回の研修で大きく変わった。正直AIを議員活動、質疑の項目やその組み立てなどまでどのように活用できるのかが見えていなかった現実がある。また予算書や決算書、それに関する報告書あるいはデジタル予算書を見ることで前年度と比較して事業を質すことにとどまっていた。それらを財政規模が同じような自治体や県内の他の自治体と比較したり、県や国の政策にどれだけ関わっているものなのか、補助金の対象になっているのかなどを調べる術を教わった。今後の審査に確実に生かしていきたい。さらに、AIというとチャットGPTしか活用していなかったが、これからは講師が推奨していた NotebookLM を使っていきたい。

また、一般質問などの後追い、フォローアップの必要性も改めて考えさせられた。私個人としては特に教育に関することに問題意識を持っている。議員になって以来教育現場の視察や学校関係者からの意見聴取を行ってきた。これらにより学校環境や教職員の指導方法、児童生徒や保護者視点での教育界の在り方、市の教育方針の状況を確認してきた。このような確認をすることで一般質問の後追いが可能になっていることも感じている。これからも教育問題だけでなく、市民の困り感に寄り添うために必要なことを着実に取り組んでいきたいと思う。